

○栃木県のがん 2016（栃木県がん実態調査報告）の概要

1. 罹患数及び罹患率

上皮内がんを除く全部位の罹患数（C00-C96）は14,209件（男性8,200件、女性6,009件）であった。罹患率人口10万対では722.7（男性838.4、女性608.2）、年齢調整罹患率は378.8（男性439.5、女性333.8）であった。

罹患数を部位別に多い順にみると、男性では大腸（1,428件、17.4%）、胃（1,359件、16.6%）、前立腺（1,342件、16.4%）、肺（1,213件、14.8%）、肝（391件、4.8%）であった。女性では、乳房（1,329件、22.1%）、大腸（934件、15.5%）、胃（630件、10.5%）、肺（529件、8.8%）、子宮（454件、7.6%）であった。

全国と比較して、それぞれの部位の占める割合は大きく変わらないが、全国では男性は、胃、前立腺、大腸、肺、肝の順であった。女性は全国と栃木県で同じ順であった。【図1B】

罹患率（人口10万対）は722.7（男性838.4、女性608.2）で、全国の罹患率784.0（男性917.3、女性657.5）と比較してやや低かった。

年齢調整罹患率で比較すると、男性の直腸、女性の子宮、胃で栃木県が高い傾向が見られるが、それ以外は同じかやや低かった。【図1A】

2. 年齢別罹患

年齢別では、2016年に新たにがんと診断された65歳以上の割合は男性76.5%、女性63.9%であった。全国においては男性78.8%、女性67.0%で男女とも栃木県の方が若い年齢の割合が高かった。【図2】

年齢階級別罹患率を全国と比較すると、全部位の男性では年齢階級が高くなるほど罹患率が低くなった。女性も低い傾向がみられた。女性の乳房では65歳以上で全国より年齢階級別罹患率が低かった。【図3】

3. 発見経緯

部位別発見経緯では、検診発見の割合が胃（19.6%）、大腸（22.5%）、肺（17.3%）、乳房（30.3%）、子宮頸部（38.1%）、前立腺（37.7%）であった。胃、大腸、肺の検診発見の割合は全国とほぼ同等であるが、乳房、子宮頸部、前立腺は検診発見の割合が全国より高かった。【図4】

4. 総合進展度

胃、大腸のように上皮内・限局が50～60%を占めるもの、子宮頸部、子宮体部、乳房、前立腺のように60%を超えるもの、反対に膵臓、胆のう・胆管、肺のように40%に満たないものがあった。

乳房、子宮頸部、前立腺以外は全国と比較して上皮内・限局の占める割合が低かった。また、遠隔転移の占める割合が高い部位が多かった。【図5】

5. 初回治療

全国と比べ、多くの部位で外科的治療の割合が高かった。初回治療は複数回答のため、集学的治療の場合においては、複数の治療法に集計されている。【図6】

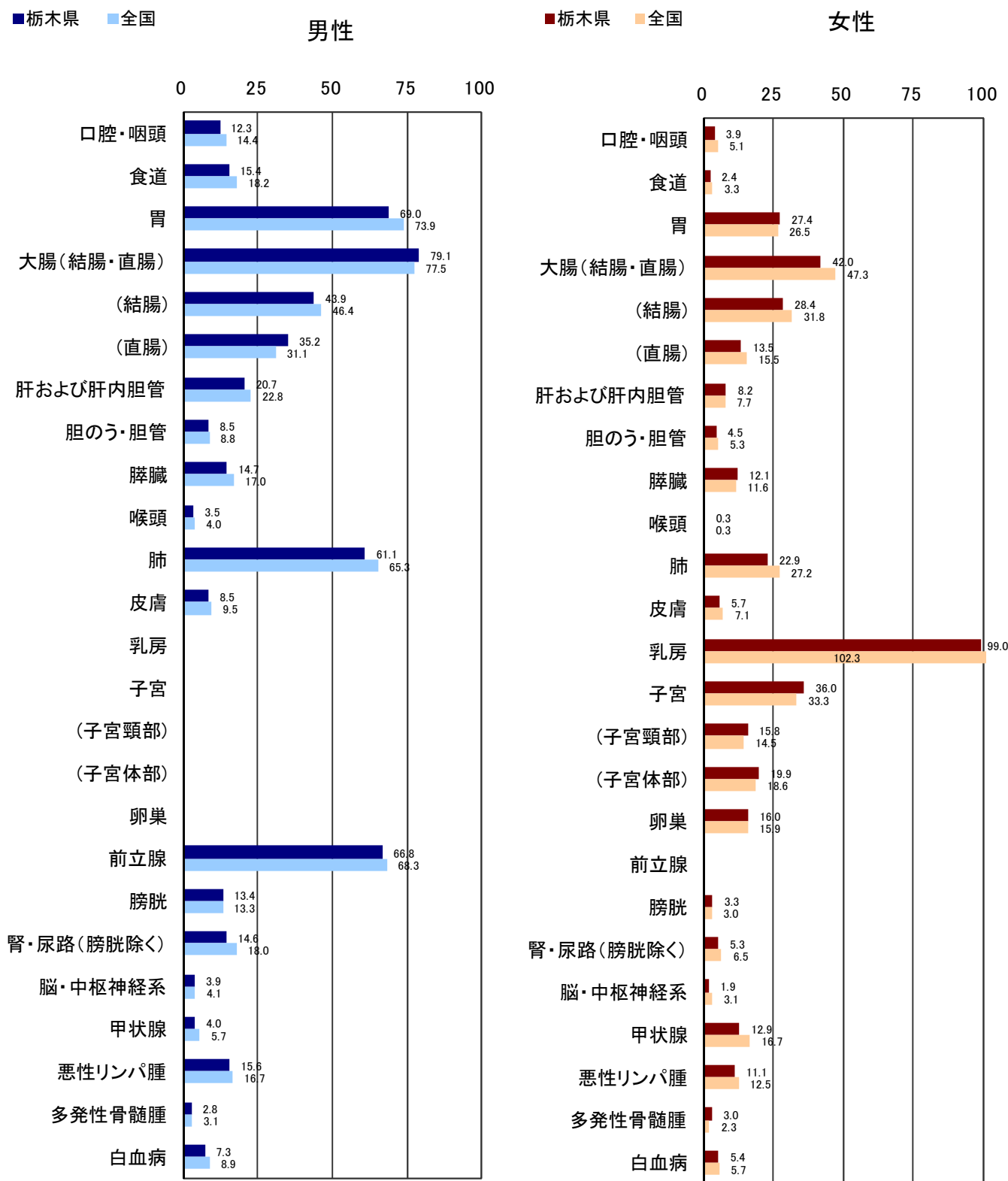
6. 死亡統計

2016年1年間で5,849人（男性3,435人、女性2,414人）が、がんを原因として死亡した。部位別では男性で肺が最も多く、胃、大腸、肝、膵と続く。女性では大腸が最も多く、肺、膵、胃、乳房の順であった。死亡順位は全国と同じであった。

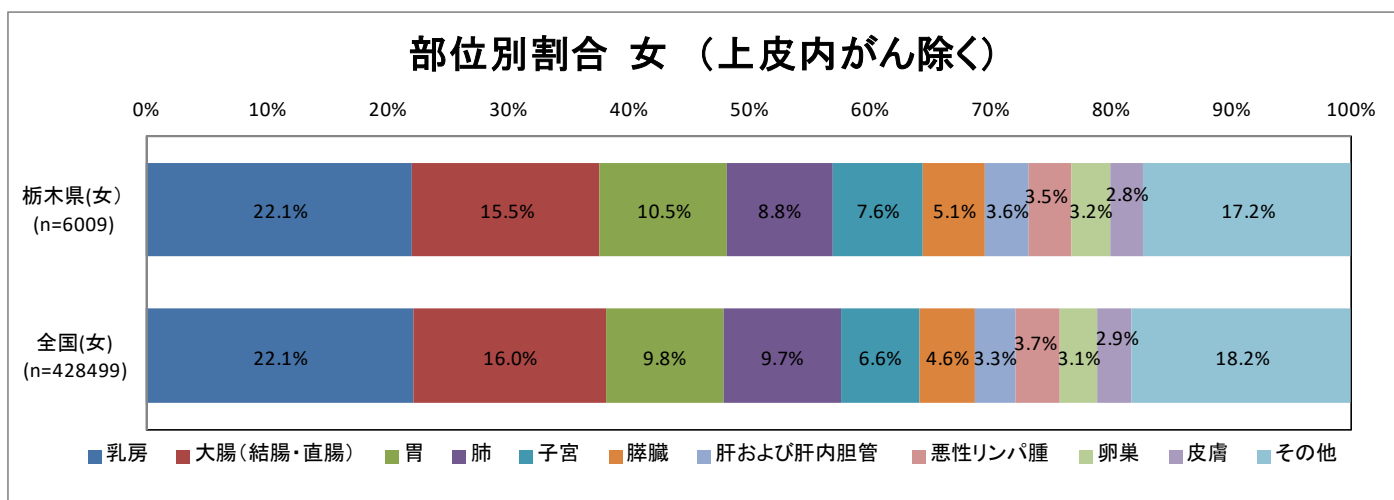
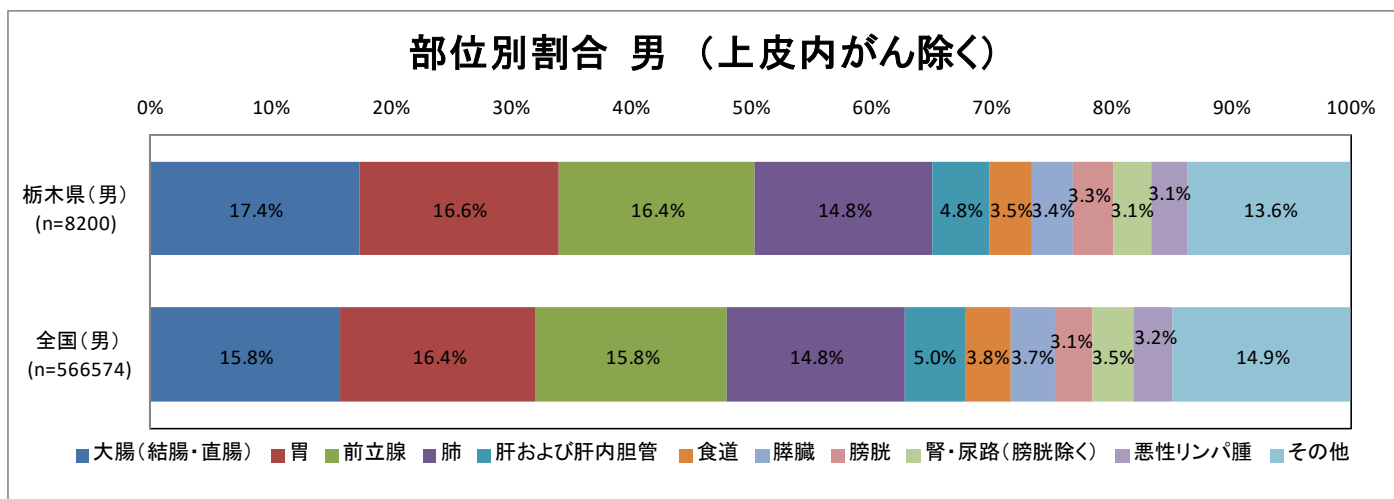
年齢では、75歳以上が男性で53.5%、女性で63.0%を占めた。全国値では、男性57.2%、女性64.4%と栃木県の方が高齢者の割合が低かった。

年齢調整死亡率では、男性で胃、大腸、肝、前立腺、悪性リンパ腫が高く、女性では胃、大腸、膵、乳房、子宮が高い傾向がみられた。【図7】

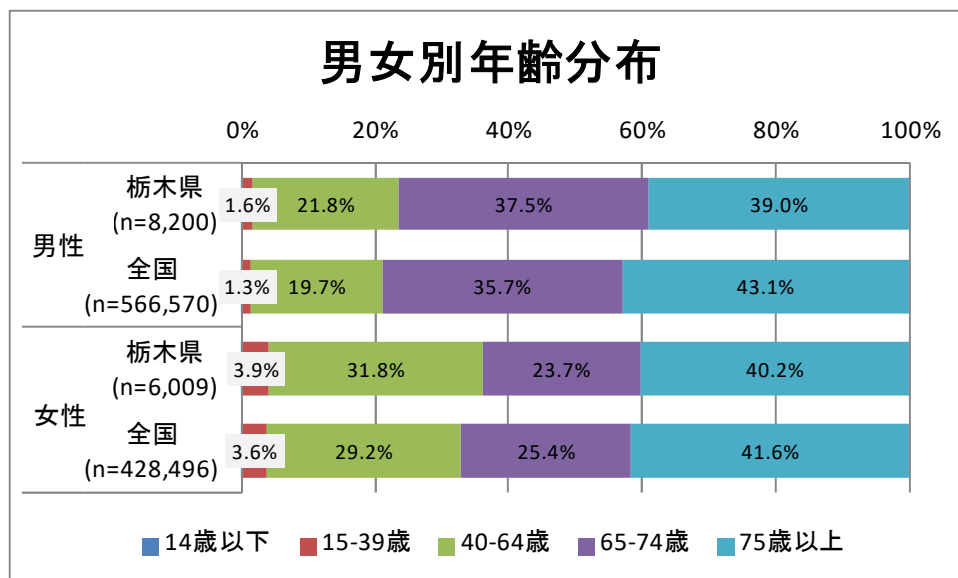
【図1A】栃木県と全国の部位別年齢調整罹患率比較



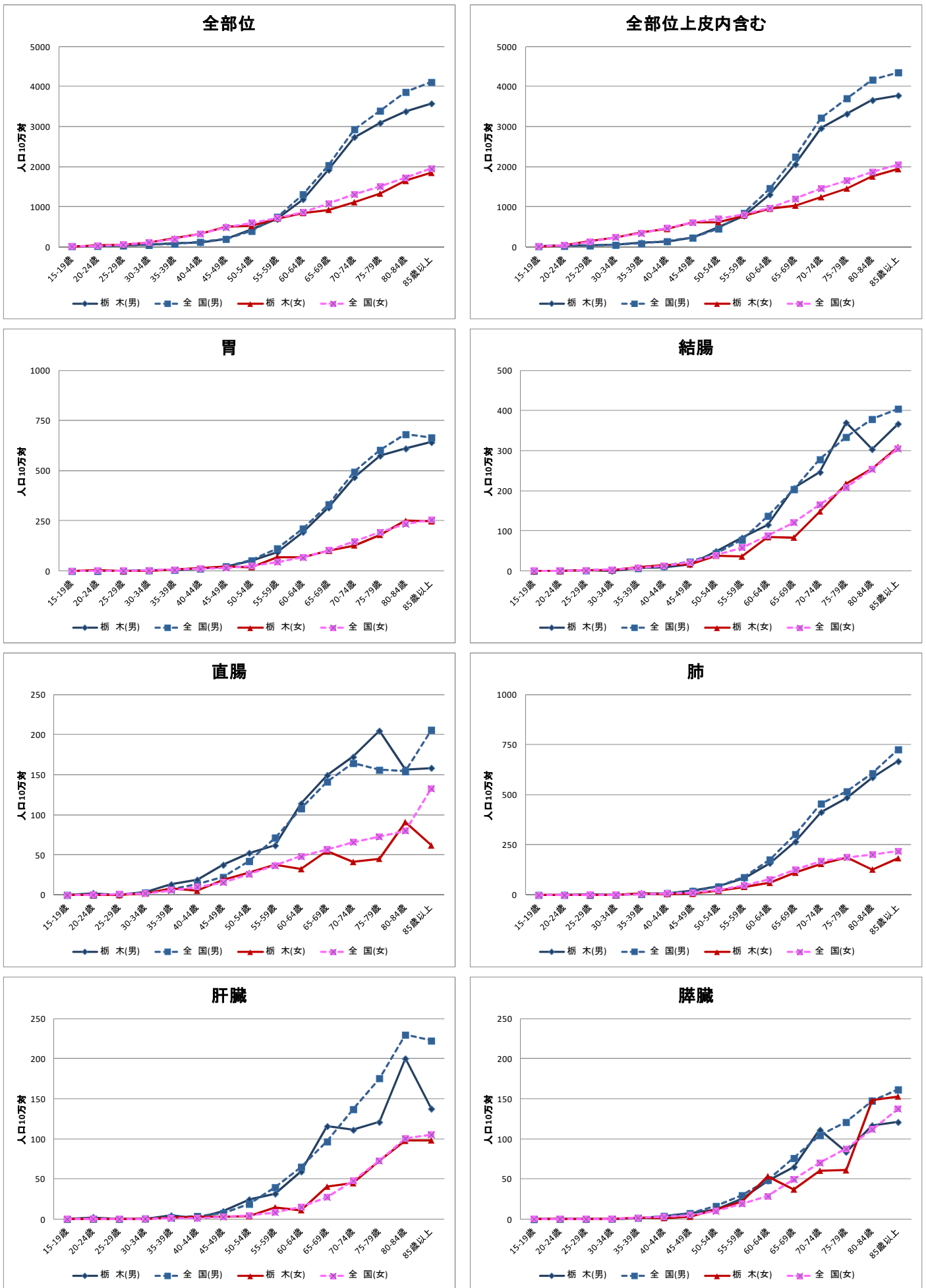
【図1B】



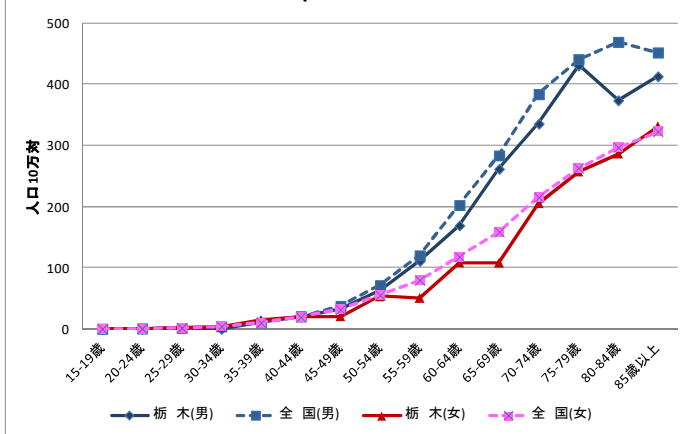
【図2】



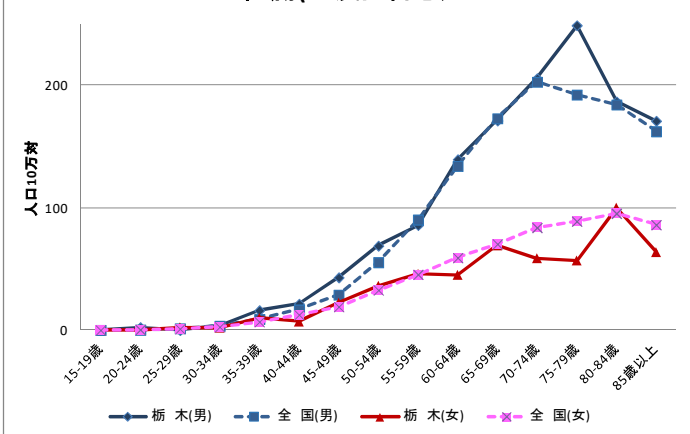
【図3】



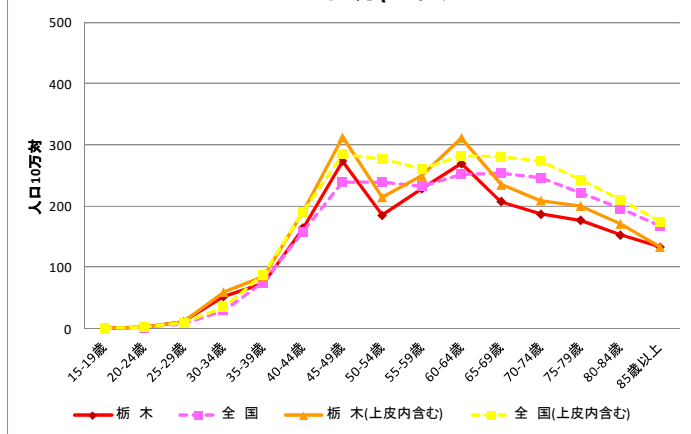
結腸(上皮内含む)



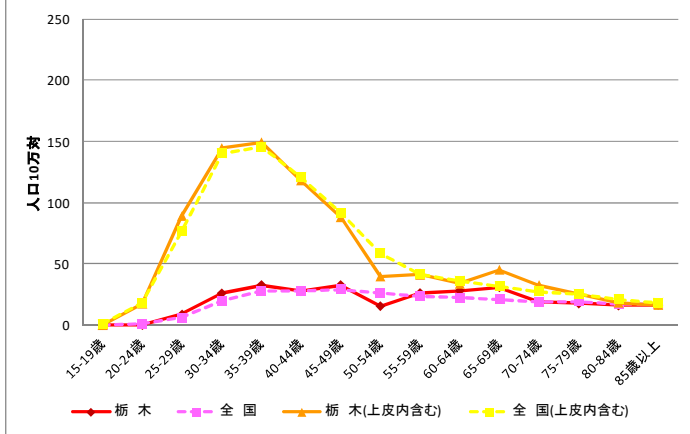
直腸(上皮内含む)



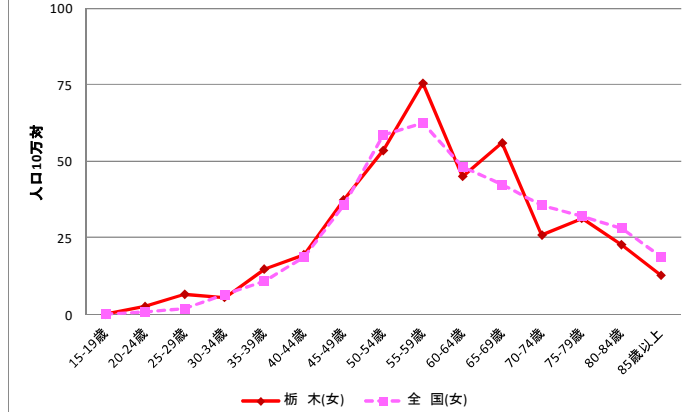
乳房(女性)



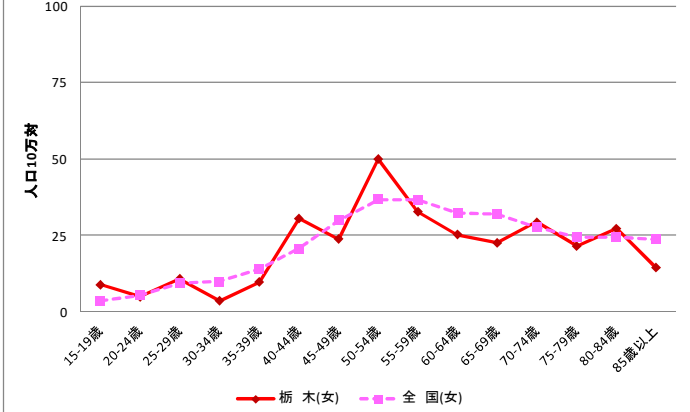
子宮頸部(女性)



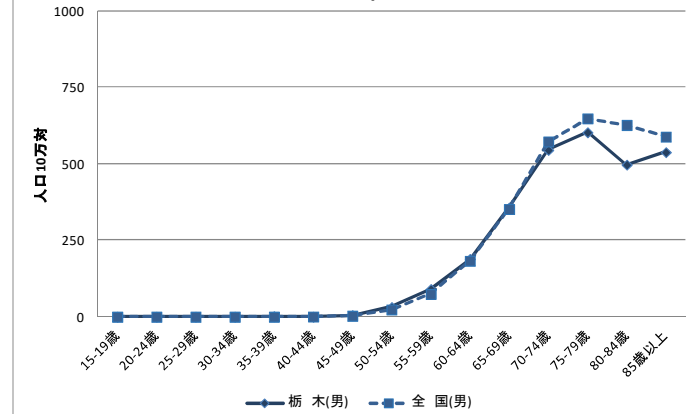
子宮体部(女性)



卵巣(女性)



前立腺(男性)



【図4】

